

文化・芸術

「水沼と水の女のはなし4」

2016年、アクリル・カンバス
作家蔵

圓山和幸 (1976年)

本作は、民俗学者である折口信夫の著書「水の女」から着想を得て制作されました。5作品からなる連作で、神が現世にいる間に身の回りの世話をする娘「水の女」の物語が添えられています。本作は4番目のシーン。

「見知らぬ男が祠ほらにやってきた

奇妙な男を見て女は身構えた

男は寒いと言った

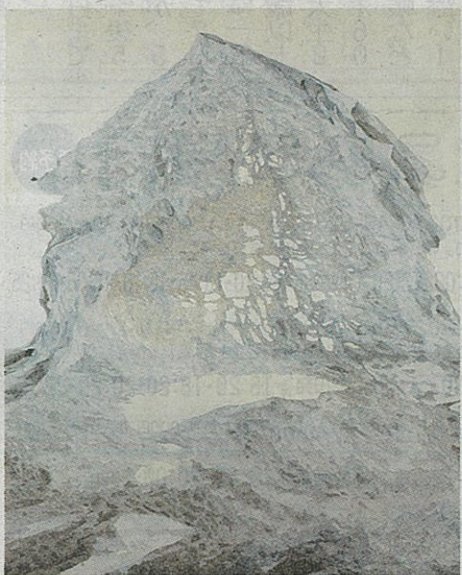
女は男をなんだか放っておけなかった

女は服を男に与えた」

作品自体は抽象的です。細かい線描、その重なりが血管や筋線維を想起させ、うごめく生命力を感じさせます。あるいはペールのような布にも見えるかもしれません。

圓山は大阪府生まれ。2010年、わたらせアートプロジェクトに参加し、足尾に滞在しました。11年11月、空き家を紹介されたことをきっかけに桐生市に移住。以来、繊維工場で働きながら桐生の地で創作を続けています。(池田)

※企画展「桐生のアーティスト2020」は22日まで。出品作家は、石原彰一、金原寿浩、小林達也、小松原洋生、丸尾康弘、圓山和幸、森村均、山口晃。月曜休館。



名画の扉

大川美術館企画展から